

日本結核病学会記念号に寄せて

日本結核病学会理事長 渡辺 彰

(東北大学加齢医学研究所 [旧 抗酸菌病研究所] 抗感染症薬開発研究部門)

日本結核病学会の記念号が発刊されるにあたり、理事長からのご挨拶を申し上げます。

学会は現在、転換期を迎えています。私が理事長職を拝命したのは2年前ですが、その前からの動きが本格化してきたのです。本学会は、法制上は任意団体でしたが、本年春から一般社団法人の資格を有することになりましたし、昨年夏には、学会事務局の居所を新たに構えました。

また、近年のわが国における結核罹患率の低下・減少は喜ばしいかぎりですが、それに伴って学会員数が長期間減少を続けるとともに、結核診療の経験のない呼吸器科医師が特に若手に目立つようになりました。ところが、本学会からの共同開催の申し入れによって1997年の日本胸部疾患学会（現、日本呼吸器学会）の総会時から連続して行っている「結核講習会」には、若手医師を含めて毎回多くの聴講者が参加しています。結核・抗酸菌症を勉強しようという熱意はあるのです。そこで本学会は、結核・抗酸菌症診療の要点と実際を若い世代に受け継ぐとともに、結核・抗酸菌研究の重要性・面白さを若い世代に伝える目的で「結核・抗酸菌症認定医・指導医認定制度」を立ち上げました。これも、本年の春からスタートしたばかりですが、幸い、学会員数は再び増加に転じました。

本学会に若手医師が増えている今、わが国の結核研究・結核診療を担ってこられた先達の方々の業績と人となりとを記しておくことは重要です。わが国の医学研究と診療は今、世界有数の位置を占めるようになりましたが、結核研究・診療の分野でこれを担ってこられた原動力とも言える方々の業績は、これからの研究と診療を担う若い研究者・医療者の鑑でもあります。是非とも、本記念号を読まれて“何か”を感じとっていただきたいと思います。結核病学会が新たな局面を迎えている今、将来においてそれを担っていくであろう若い研究者、若い医療者の皆様方には、あるべき結核・抗酸菌症の研究と診療の姿を実現していただくよう、切にお願い申し上げる次第です。

なお、一般社団法人化と結核・抗酸菌認定医・指導医認定制度の実現に中心となってお尽力いただいた森下宗彦常務理事、および関係の皆様には、この誌面をお借りして心から御礼を申し上げる次第です。ありがとうございます。

(平成23年3月、東日本大震災後の錯綜・混乱した研究室にて)